会　議　録

会議名		平成 27 年度第 4 回八王子市博物館協議会
開催日時		平成 28 年 2 月 24 日(水)午後 6 時 30 分～8 時 30 分
開催場所		八王子市郷土資料館集会室
出席者	委員	小野一之、大村のり子、柿﨑博孝、佐藤栄子、佐藤一、田野倉宏和、藤岡換太郎、本田怜子、山中幸生、吉田幸子、　　(50 音順)
	事務局	牛山清志こども科学館長、中正由紀郷土資料館長（文化財課長)、森融こども科学館専門幹兼主査、尾崎光二郷土資料館担当主査、中村善行郷土資料館担当主査
欠席者		なし
議　題		協議事項 １．新郷土資料館の基本構想(使命)について ２．平成 27 年度八王子市こども科学館及び八王子市郷土資料館事業実施状況（4～1 月期）について
公開・非公開の別		公開
傍聴人の数		なし
配付資料名		会議次第 平成 27 年度　こども科学館事業実施状況 (平成 27 年 4 月～平成 28 年 1 月分) 平成 27 年度　郷土資料館事業実施状況 (平成 27 年 4 月～平成 28 年 1 月分) 新八王子市郷土資料館整備に関する提言書（案）

	郷土資料館で平成 28 年 2 月 16 日～3 月 27 日開催中の特別展「八王子の指定文化財」について、1 階特別展示室に委員全員が移動して八王子市郷土資料館河津主任による展示説明を受ける。 終了後、2 階集会室に再度移動し、新郷土資料館の基本構想（使命）について八王子市郷土資料館尾崎主査から説明。 尾崎主査　前回の博物館協議会の会議時にみなさんからご提出いただいたご意見をもとに、今回「新八王子市郷土資料館整備に関する提言書」を案としてまとめ、お送りした次第です。お読みいただいて、ご意見・ご感想等あればお聞かせいただきたいと思います。 藤岡委員　今まで取り組んできた事業とこれから取り組む事業との明確な違いが分かる形にしてはどうでしょうか。基本理念について見ると「自然」の位置付けが曖昧に思えます。使命については市の発展に寄与してきた大久保長安等を入れるべきではないでしょうか。 大村委員　今までの構想とこれからの構想の違いが明確に分かるような表現になっているといいと思いました。それから全体の中で歴史・文化が中心になっていると思いますが、以前に郷土資料館で発行している研究紀要を読ませてもらった際に八王子すみれの研究について取り上げられていましたが、そういった自然系の位置づけはどうなるのかわかりませんでした。全体的にいいことが書いてあり、そのとおりになればいいと思う内容でしたが、細かいことをいうとこの資料の (4) ～ (6) は「やすらぎのある、だれもが、安全・安心で、清潔なまた来たい」といった表現は必要ないのではないでしょうか。それから 4. 郷土資料館の機能の中に継承・創造という項目があって創造の面がわかりづらいのでもっと具体的な説明がほしいと思います。 佐藤一委員　今回提出いただいた提言書についてはよくまとめられていると思いますが、新しさが伝わってきません。もっと具体性を含んだ記述がほしいと思います。資料の中にネットワークについて図で示している箇所がありますが、閉鎖的に見えます。機能を図式化するのであればインターネットは世界に繋がっているという意識を持って取り組まなければいけないと思います。

	本田委員　図は分かりやすいと思いますが、機能と目的の整合性が対応した形になっていればいいと思いました。4 大機能に付加する形で継承・創造、集い・交流、ネットワークが記載されていますがこの内容はとても重要なことだと思うので、もっと際立たせる工夫があってもいいと思いました。「(3) 学校教育との連携を深め、郷土学習の拠点とする」にある次世代を担う子どもに、もっと広くスポットライトをあててほしいと思います。 山中委員　この提言はまとまっているとは思いますし、文言を読んでみてもそのとおりだと思いますが、八王子らしさという面では説得力が少ないと思います。郷土資料館という枠の中であればここに記載されている内容だと思います。内容については具体的に記載されていますが、後付の説明だと八王子らしさが少ないです。(5) に「八王子の豊かな自然と貴重な歴史は地域で営まれた生活とともにはぐくまれたもの」という記述には八王子らしさが感じられますが、それ以外の箇所では感じられません。私は世田谷に住んでいますが、これらの文言の頭に「世田谷の」を入れてみても特に変わらないという内容が多いです。大学に勤務している私が言うのも何ですが学校教育、特に八王子といえば大学が多いことが特色ですから、4. 新郷土資料館の機能に出てくる「調査・研究」にその特色を生かさないのはもったいないことです。実際に事務局の運営上どうなっているか分かりませんが今回提言として提出するのであれば盛り込むべきです。 それから、今回は誰に対して向けた提言なのかわかりません。たとえば、一般家庭、市民に対してこういう形で取り組んでいくという姿勢を示すものなのか、ターゲットを具体的にするべきです。それからここにある図については申し訳ないですが意味が分かりませんでした。先ほどネットワークについて話が出ましたが、図を挿入するというのは分かりやすくするためであり、丸や四角で囲っているというのは異なる種類のものです。また、矢印の示すものなど、表現しているものが何か分からないので、図を入れて分かりづらくなるのであれば、かえってない方がいいと思います。 佐藤栄委員　4. 新郷土資料館の (2) に「新郷土資料館として生まれ変わるため～」とあり、そのために新たに取り組む機能として「集

		い」、「継承・創造」、「ネットワーク」とあります。この点を理念として記載されたと思いますが、そのことについて具体的な記述が全然ないと感じました。先ほど佐藤一委員がおっしゃったようにネットワークは大事なものです。提言の 3、(5)にある「八王子の豊かな自然と貴重な歴史は、地域で営まれた生活とともに育まれたもの」とありますがまさにそのとおだと思います。青森の町おこし企画に参加した経験がありますが、市民の参加がなければ失敗してしまいます。地域の資料館同士で連携を図るというのはとても大事なことですが、同じ博物館や専門家同士で連携したとしても新しいものは生まれにくいです。市民との連携という言葉は出てきますが、どのように連携していくかの具体性に欠けています。理念としては分かります。
	吉田委員	新八王子市郷土資料館ということであれば、「新」の部分は何なのかまとめて示すことができればスッキリします。最も「新」として伝えているところは提言書 2 の『歴史と文化から八王子の未来を創造する』基本理念であり、八王子の過去・現在・未来の伝達者として活動する博物館とは八王子の魅力を発信する、伝える、守る、開かれた博物を新しいものを作る上でもっとアピールとして活用していった方がよいと思います。ここで羅列だけして終わってしまうのは実にもったいないことだと思います。 先ほどから出ているように、ネットワークについてはほとんど手が付いていない状態と言ってもいいのではないでしょうか。内部ではできているのかもしれませんが、外部（市民）に向けて伝わってきません。人々が集い、交流し、誇りと郷土愛を育む場（学びの場）というのは要するに、これからの博物館というのは市民参画が大きなテーマになっています。 だから、私たちは新郷土資料館における市民参画について、まだそんなに大きな一歩は踏み出していません。たとえば郷土資料館設立のきっかけとなった井上郷太郎氏から寄贈された井上コレクションを市民の協力を得ながら、「こういう形にしていきたい」、「どういった観点でどのような思いで収集されたのか」といった個人の思いを核として伝えていくことができたら、もっと市民参画の意味が広がっていくのではないかと思います。

	それでないと一度で終わってしまってはその先つながっていきません。それは教育普及という面でも同じで八王子市のすべての小学校 3 年生は副読本として「私たちのまち八王子」を使用しています。これはなかなかよくできています。これは新しく八王子に転入してきた方にもぜひ読んでもらいたい内容です。前回の会議でも出ていましたが、同じように副読本を作り、それを軸にして市民に問いかけていくような耕しが必要だと思います。市民参画や市民協働というのは文字だと四文字で書き表せるがとても難しい。今の段階ではここまで、というような具体例を示すことができればいいのではないかと思います。 　また、1.新郷土資料館整備の目的として挙げられている「誇りを郷土愛を育む場（学びの場）というのは難しいと思います。育む場はともかく、学びの場とするのは生涯学習の中でそこまではできないと思います。しかし、大事にしていきたいのはその後にある「市民とともに歩みつづける博物館を目指して活動することが必要である」は最も大きな目玉ではないかと思います。『歴史と文化から八王子の未来を創造する』にある 4 つの観点から少し整理して、新しいところは何なのか示すことが必要ではないかと感じました。 柿﨑委員　今回の計画は八王子医療刑務所移転後用地活用計画に結びついたものだと思いますが、新しい資料館ということをアピールするというのは基本理念と使命が結びついていないとできないのではないかと思います。今後もっと整理して、新しい資料館の魅力はどこにあるのかをもっと積極的に打ち出したものを提言書として、用地活用計画とうまくリンクさせて事業展開できればいいと感じました。 田野倉副会長　私は今までの資料館とは違って新しい方向性がこの提言書の最初に盛り込まれていると思いました。資料館というのはなかなか来館者が増えないと思いますので、来館してもらうために小学校の生徒が自発的に来館するような工夫、例えば図書館などで実施しているような小・中学生の作品を展示する等して関心を持ってもらえるような方向性があってもいいのではないかと思います。そういった内容がこの提言書の目的に入っているように理解しましたので、これでいいと思います。

	小野会長　今みなさんからの意見を感心しながら聞いていました。この提言は文書としてよくできていると感じるのはキーワード的によくまとめられていて、「市内」という視点で考えれば6つの拠点となることを使命としてきちんとうたっていることが挙げられます。6つの拠点とはその調査・研究、生涯学習、郷土学習、情報発信、市民協働、コミュニティを指すと思いますが、博物館は最終的にコミュニティの拠点になりたいという思いがあります。そのように整理すれば使命として読み取れるのではないかと思います。コミュニティの拠点といった場合には、先ほど特別展の説明でもありましたが、戦後のお寺が持っていた機能も含めた役割もあるのではないかと考えます。いずれにしてもこの提言はまとまってはいますが、委員のみなさんからもありましたように八王子らしさを盛り込むこと、具体性に欠けること、そして図の難点が改善点として挙げられます。この点に関しては再度事務局で検討していただき、改めてご提示いただければいいと思います。 　そして具体性についてですが、今から決めることではなく、方向性だけ共有していってそれを裏付けていく形。具体化していくというのは基本構想ができてから内部スタッフと市民連携の中で進めていくものですから、本会では方向性、プランを共有化して示していくということでよろしいのではないでしょうか。これ以上いろいろな意見をまとめていくのは難しいでしょうから、今いただいたみなさんの意見を事務局で取捨選択してまとめていただくということでお任せするということでいかがでしょうか。 尾崎主査　今みなさんからご指摘いただいた件につきましては、提言の意図が伝わっていないということがわかりました。みなさんに伝わっていないということは市民のみなさんにももっと伝わりにくいと考えます。特に図の評判が芳しくないようでしたので解説いたします。この図は上が武田菱、下が後北条氏のミツウロコを表しました。下の図が台形になっているのは現在の八王子の土台を築いたのが後北条氏であったこと、その上にある円につきましては、江戸時代に入り千人同心が活躍したことを踏まえて、千人同心が武田氏の家臣だったことに由来して武田菱をモチーフにしてこの図を作りましたがもっとわかりやすく修正いたします。またみなさんから自

	然についての話が出ました。自然については八王子として高尾 599 ミュージアムがありますので、そちらで取り扱っていくことになりますが、八王子は高尾山、八王子城、滝山城と自然と一体になっているということですし、養蚕だったり宿場町として炭焼きなど産業が盛んだったりと、生活と自然が一体になっていますので、そういった面から自然についてアプローチしていくということでまとめていきたいと思います。 中正館長　今の尾崎主査の補足をいたしますと、この提言書は八王子市博物館協議会から八王子市に対していただく形になっております。市としてこういったことをやりたいという主旨のものではなく、みなさんから新郷土資料館の整備に向けてこうしてほしいという観点からご意見をいただくものです。それをいただいた上で、八王子市教育委員会や八王子市として来年度以降に検討していく中でいただいた意見を盛り込みたいと考えておりますので、みなさんが求める郷土資料館ということでご意見をお願いします。 小野会長　今、中正館長がおっしゃたようにこの提言にみなさんからの新郷土資料館への思いが伝わっていればいいと思います。 藤岡委員　先ほど山中委員から出された八王子らしさを表す大学の多さについてですが、この提言の「新郷土資料館の機能」にあるネットワークの中に大学を入れずに地域の歴史愛好団体と連携するというのが気に入りません。大学と連携するのは重要だと思うが、歴史愛好団体を対象にするというのはよくわかりません。また、継承・創造に中にある八王子の歴史・文化や伝統文化を体感したり、体験したりする場を整備するとありますが、これらについては小学生であったり、次世代を担う市民に提供することを追加した方がよいということ、そして歴史の理解を助けるための何か具体的なモデル（模型）を作るような予定があってもいいのではないでしょうか。 小野会長　山中委員や藤岡委員がおっしゃったように大学との連携は必要だと思います。歴史愛好団体という呼称がいいか悪いかは別として、郷土史研究家が現在の郷土資料館設立の機運をを盛り上げたことを考えると、これも大きな特色のひとつと考えられますので、この理念については継承していくべきです。

	こうした人たちを抜きにしての資料館・博物館はあり得ないと思います。それから提言の書式の中にカッコ表記なしでまとめた方がいいと思います。 尾崎主査　どうしても八王子らしさといいますと大学が出てきますが、その存在に負けたくないといいますか歴史については郷土資料館が中心になって事業を展開したいというものがあります。 藤岡委員　大学も事業の中に取り込めばいいと思います。この提言のとおり事業を進めていくとすれば、現在の職員数で足りるのかという話も出てきます。大学との連携を図ることができれば、そうした問題にも対応可能なのではないでしょうか。 山中委員　尾崎主査の考えはそれでもいいと思います。しかし、排除するというのはおかしいと思います。資料館は歴史の中心となって事業を進めていくのであれば、所蔵している資料を大学に提供して調査・研究を依頼すればいいわけです。大学側にやらせるという姿勢がなければ内にこもった団体ということになってしまいます。それは新しい郷土資料館の整備を進めていくにあたってとても閉鎖的なものであり、そんなことをいっていてはネットワークの確立もおぼつかず、新郷土資料館の存在意義も疑われてしまいます。 資料館が中心になって誇りをもって歴史事業を展開していくことがみなさんの求めている新郷土資料館像なのではないでしょうか。 小野会長　ではここで本議題を終了します。 引き続き平成 27 年度八王子市こども科学館事業（4～1 月期）事業実施状況について森こども科学館専門幹兼主査から、平成 27 年度八王子市郷土資料館事業（4～1 月期）実施状況について八王子市郷土資料館中村主査から説明。 吉田委員　こども科学館は年末年始にかけて休館されていましたが休館明けの来館者からの反応はどうでしたか。 牛山館長　子ども用の洋式トイレを設置し、アメニティが向上したと思っております。幼児向けのプラネタリウム新番組を入れられましたので好評です。展示内容につきましては以前

	と変わっておりませんので、来館者は物足りないのだと思います。 柿崎委員　　郷土資料館の事業報告の中で企画展「八王子と鉄道」の展示解説の話が出ましたが、これはどのような形で市民に周知されていますか。 中村主査　　広報はちおうじ、市のホームページに記事を掲載しております。 柿崎委員　　このような内容のものは重要な教育普及活動のひとつと考えられるので、事業報告にも資料として掲載してほしいと思います。 中村主査　　はい、そのようにしたいと思います。 田野倉副会長　こども科学館についてですが、故障している展示物については直す予定はありませんか。 牛山館長　　故障してしまっているものにつきましては大きなものは予算的な問題もありまして、修繕することが難しくなっております。危険が生じるようなものにつきましては、対処していきたいと考えております。 田野倉副会長　来年度実施予定の改修工事の準備は進んでいますか。 牛山館長　　展示に向けまして基本設計を策定するとともに施設の設備修繕も併せて実施する予定ですので、いろいろ調整しながら進めているところです。展示物は新しいものを入れたり、既存のものも使用できるものにつきましては、引き続き使用する予定です。 佐藤栄委員　　郷土資料館の事業報告資料の中にある入館者数推移の折れ線グラフについてですが、平成 25～27 年度の表示が重なっていてわかりづらいので修正をお願いします。 中村主査　　ご指摘ありがとうございます。修正いたします。 大村委員　　こども科学館のプラネタリウム番組である「ゴッホが描いた星空」の感想ですが、出来があまりよくなく、ちょっと抽象的だったと思います。全体を通して画が薄い印象を受けました。 森専門幹兼主査　「ゴッホが描いた星空」は原画を使っているのですがプロジェクターの光が弱く、おっしゃるとおり薄かったと思います。内容としましてはゴッホは星の絵を多く描いていて、弟にも多くの手紙を出しているのですが、手紙と絵をうまく組み合わせたプログラムになっていて、大人向けではあるの

	で、それが 1 回あたりの観覧者数が少なかった理由と考えられます。 小野会長　それでは私の方から最後にひとつだけ申し上げます。私はこども科学館の事業報告資料で気にかけている数値があります。それはプラネタリウムの観覧者数です。平成 28 年 1 月までの合計が 49,694 人。府中の郷土の森博物館のプラネタリウムがリニューアルされてから半年が経過しましたが、人数は 49,271 人でこども科学館の方がわずかに上回りました。内訳を見たところ、府中は大人と子どもの割合が 5 対 5 で、こども科学館は 6 対 4 で子どもの割合が高くなっています。また、学習番組と一般番組の割合でいうと、学習番組がこども科学館が 26%に対して府中は 20%です。この数字から読み取れることは八王子は府中よりも子どもの割合、学習番組の割合が高い。こういった違いがあります。今後こども科学館としてどうしていけばいいか考えるにあたり、先ほどの大村委員のご意見とは逆になってしまいますが、もっと大人にアピールしていけば来館者の数字が増やせるのではないかと感じました。 新博物館のことも含めて八王子としてはそのあたりが狙いどころなので今後も期待しております。 小野会長　それではその他事項はありますか。 森専門幹兼主査　八王子隕石落下 200 年記念展として、こども科学館は 3 月 10 日から 4 月 24 日まで特別展「八王子隕石と小惑星探査機はやぶさ」、4 月 24 日には講演会「太陽系にまだ未知の惑星はあるのか」、郷土資料館では 4 月 3 日から 5 月 8 日にかけて企画展「八王子隕石と江戸時代の天文」、さらに「八王子隕石の古文書を読んでみよう」を開催しますので、ぜひ両館にご来館ください。 中村主査　郷土資料館の今後の実施事業について報告します。2 月 28 日に文化財課との共同で講座「メカイをつくろう」、3 月 26 日には体験学習「甲冑を着てみよう」の開催を予定しております。 小野会長　では他にないようでしたら平成 27 年度第 4 回八王子市博物館協議会を終了いたします。どうも有難うございました。